

□議員名：岩本信子

1 学校給食について

論点	学校給食における食文化の継承はどう考えるのか。
回答	食文化は指導目標に掲げられている。食に関する指導の全体計画でも食文化の内容を取り入れている。現在、行事食や旬の野菜を使った給食を提供している。また県内産の食材の郷土料理もあり、教科や特別活動等とともに食文化の指導の推進をする。

論点	教育委員会での給食調理法式の最終結論はでたのか。
回答	提示した4つの調理方式の中から、財政的な見地で市長が決定する。

論点	議会へ「親子調理方式で」との請願が出ているが、どう受け止めるか。
回答	議会に提出されたものだから、議会の動向を見守る。 市長・請願権の行使は国民の権利です。が採択されても、法的な拘束力や効果はありません。わかりました検討しますと同じ意味だ。

論点	4の調理方式で個人的に和食文化に最も近いのはどれだと思うか。
回答	個人的意見は言えない。和食の自給自足と心を込めて作る精神は非常に大切であり、尊いものとする。が歴史的に衛生面に問題があったと思う。一概に応えられない。安心安全は必ず必要だ。

論点	他校の自校調理方式への切り替えについてはどう考えるか。
回答	自校方式のよいところはたくさんある。近くで食事を作る環境は素晴らしい事である。安心安全面がクリアできればそれがよい。

論点	4つの調理方法で、「大きな差はないが、ちっちゃい差」があると言われているがそれはどのようなものか。
回答	食に関する指導項目は1392項目ありその中で自校でないといけないものが8項目あり全体の0.5%である。それは調理員への感謝、の心を育む、や交流、触れ合い等でそこに調理場がないとできないものである。

論点	0.5%の中に大事なものがあり、それが和食文化だと思うが、教育委員会では議論されたのか。
回答	1392項目は全て重要である。センターにすれば、食育指導員、配膳員を兼ねて触れ合いができるようにする。

論点	新しい調理方式をするにあたり、今出している給食内容の基本方針ができるのか。また校長・栄養士・調理員と協議されているのか。
回答	協議はしていない。学校給食は学校の主体性に委ねており教育委員会が全体的な指導は余りなかった。反省をしている。市全体の委員会を立ち上げたい。

論点	今の給食の質は、教育委員会ではどう評価されているのか。
回答	どこの学校も質は非常に高く誇れるものがある。

論点	4つの調理方式では、給食の質は同じと評価するのか。
回答	質がどんなに高くても安全という基盤が必要であり改善しなくてはいけない。

論点	衛生面がよくなれば給食の質が下がっても仕方がない考えるのか
回答	質が下がることはあってはならない。がまずは安全が第一である。

論点	安全は食べる本人が選択する能力で食育のなかで習得する。5000食のセンターではどうしても加工食品が多くなり品質の見分ける能力が欠けるとは考えないのか。
回答	給食食材は慎重に用意されている。地産地消でも衛生管理はできているのか、単純な話ではない。安全面でしっかりしたものを届ける

論点	安全な食品の見分け方はよいものを食して判断できる。センターでは加工食品が増えるので素材の品質を見分ける能力が育たない。この点からも自校方式に勝るものはないのではないか。
回答	食事を作る過程を身近に感じることは、有意義である。家庭で頑張ってもらいたい。

論点	生活改善は家庭に踏み込んでしている。学校給食も家庭でできない部分を補うという考えはどうか。
回答	程度の問題がある。簡単に結論は出せない。教育委員会では4つの調理方法は食育上は、変わらないという見解だ。

論点	質のよい給食を提供することで若い人の定住促進を図ることはできないのか。
回答	要素はまったく否定はしないが、牽強附会の印象をうける。

論点	財政面で、小野田では親子方式で改修はできないのか。またいろいろな組み合わせの親子方式も考えることができるのではないのか。
回答	小野田の調理場は衛生上不十分であることははっきりしている。ドライ方式で改善する方向で考えている。

2 子ども・若者育成支援推進について

論点	ニートや引きこもりについての相談体制はどうか。
回答	社会教育課では、ヤングテレホンを設置 20 歳代までの青少年を対象に電話・電子メールの相談を受け付けている。ニート・引きこもりの相談も数例ある。子ども福祉課では 18 歳未満の児童を対象に家庭相談を受けている。

論点	各部署との支援体系と相談窓口の一元化はどうか。
回答	相談窓口の一元化と協議会の設置を 26 年度中にする。